



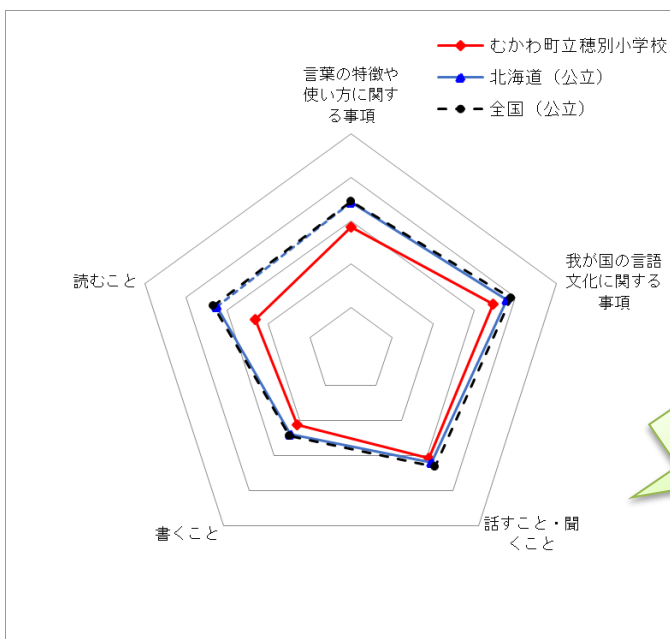
令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

〔調査の概要〕

4月19日（火）、全国の小学校6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。先日、町全体の結果がむかわ町ホームページに掲載されています。

「教科（国語・算数・理科）」と「質問紙調査」等の結果をもとに、本校の子どもたちの学力や生活の状況について考察をまとめましたので、お知らせいたします。

【国語】 全国平均正答率より「とても低い」結果となりました。



〔成果〕

- 領域別の正答率は、全て全国平均を下回りましたが、「**話すこと・聞くこと**」領域の正答率が**比較的高い結果**となりました。
- 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題では、全国平均を上回っています。

調査問題 2 三

〔課題〕

▲特に、「読むこと」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で課題が見られました。

〔最も課題の見られた問題〕

- ▲右の問題は、「銀色の幻想」という物語の一部（約4ページ）を読み、この物語の全体像を具体的に想像して表現の効果を選ぶ問題ですが、全国平均と比べ、約44ポイント低い正答率でした。
 - ・物語をよく読み全体像をとらえられれば正解の「2」にたどりつくのですが、「1」と答えた児童が多くいました。これは、色の表現（赤線部）に注目してしまい、物語の全体像と関わらせて考えることができなかつたことが原因として考えられます。

- 1 色の表現を使い、季節が変わったことを印象づけている。
- 2 「ぼく」が体験した信じられないような出来事を印象づけている。
- 3 空と風を表す表現を使い、「ぼく」が宇宙に行った不思議さを印象づけている。
- 4 「ぼく」が過去から現在にもどってきた安心感を印象づけている。

三 同じ学級の山村さんも、「銀色の幻想」を読み、すいせんする文章を書いています。次の「山村さんの文章」の B の中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

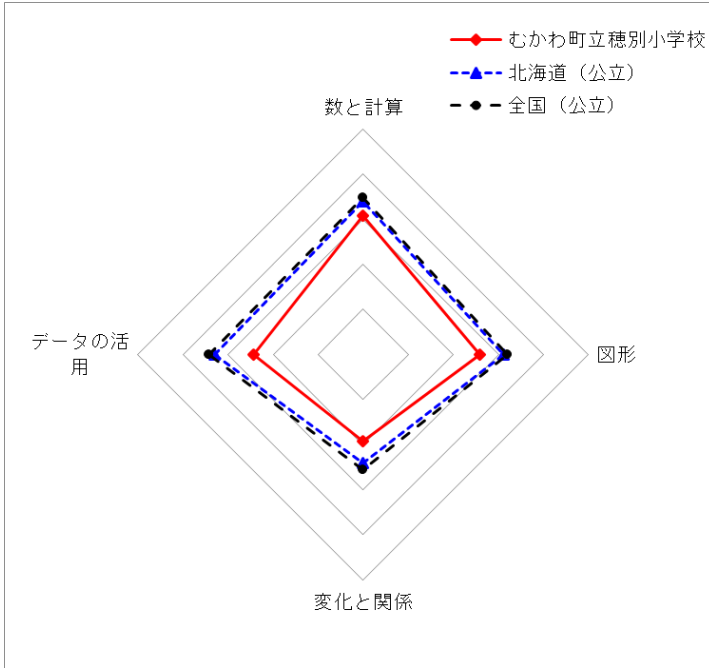
〔山村さんの文章〕

この物語は、主人公の「ぼく」が自分と同じ名前のもけい店で「老人」と出会うことから始まる。「老人」は、未来の「ぼく」のすがたかもしれないのだが、読者にそう思わせる表現が文章全体に散りばめられている。そのため、読み進めるうちに、物語の世界にどんどん引き込まれていく。そして、最後の一文「ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよんでいるだけだった。」は、

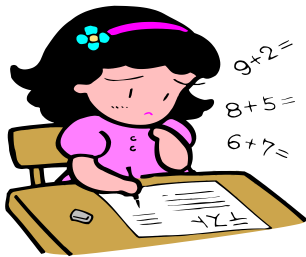
B

読み終わった後も物語の世界にひたることができるとおすすめの作品だ。

【算数】 全国平均正答率より「とても低い」結果となりました。



〔成果〕
 ○領域別の正答率は、全て全国平均を下回りましたが、「**数と計算**」領域の正答率が比較的高い結果となりました。
 ○特に、「14と21の最小公倍数を求める」「例をもとに、カップケーキ7個分の値段を割り算で求めることができる理由を述べる」など**16問中3問は全国平均を超えており**、問題によっては高い理解を示していることが分かりました。



調査問題 2 (1) (2)

〔課題〕
 ▲領域別に見ると、「図形」や「データの活用」の正答率が低い結果となりました。
 ▲百分率を使って計算する問題（5年生の学習内容）について、正答率が低い一方で無回答率が高く、苦手意識が見られました。

〔特に課題の見られた問題（右）〕
 ▲（1）の問題は、百分率（%）で表された割合を分数で表す問題です。正答率は全国平均より約25ポイント低く、また、本校の4人に1人は無解答でした。
 ▲（2）の問題は、百分率（%）と飲み物の量から、果汁の量を求める問題です。これも、正答率は全国平均より約34ポイント低い結果でした。
 ・これは、百分率についての基礎・基本が定着していないことが原因と考えられます。

2

果汁入りの飲み物について考えます。

(1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。

(2) オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。この飲み物1000 mLには、果汁が何 mL 入っていますか。答えを書きましょう。